

・地域資源のテキスト化に関する作業の進捗状況

担当部署：商工課・農林課・水産課・里海推進室

○取り組み状況

- (1) 「きんこ」のテキスト化について
 - ・「志摩のきんこ」を主題とした地域資源のテキスト化について、生産者と協議及び内容の確認を行った。
 - ・立命館大学の学生による隼人芋のきんこ加工実習を実施し、農家から加工手順についての説明やきんこ以外の商品への取り組みの状況などの説明を受けた。
- (2) 「アカモク」のテキスト化について
 - ・「完熟天然 アカモク」を素材とした地域資源のテキスト化について、担当部署で協議した。
- (3) 志摩ブランドについて
 - ・現在、志摩ブランド認定を受けている6商品につきまして、志摩ブランド認定商品PR用チラシ作製にかかる取材を行った。

今後の取組み

- (1) 「きんこ」のテキスト化について
 - ・「志摩のきんこ(案)」を、鳥羽志摩農業協同組合、志摩市商工会、生産者などで内容を確認いただきテキストとして完成させる。
 - ・三重大教授による農家座談会の開催を予定しており、今後、志摩地域に適した隼人芋栽培暦を作成する。
 - ・大学生による市内での隼人芋の収穫実習・きんこ加工実習を通じて、体感したことを生かした若者による商品開発を実施する。
- (2) 「あかもく」のテキスト化について
 - ・「あかもく」について、各漁協、志摩市商工会、三重県水産研究所と協力し、採藻の時期・量・方法・出荷等をまとめ生産者へ周知する。
- (3) 志摩ブランドについて
 - ・現在志摩ブランド認定を受けている6商品について、生産者・事業者による商談会への参加や外部専門家評価報告会を行い、志摩ブランドとしての特産品の価値を最大限に引き出す方法の検討と志摩ブランド認定業者からの相談対応や情報発信を行う方法の仕組みづくりを行う。